

大分県下における児童票内にある 発達・保育経過記録についての検討

齊藤 範子

Consideration of Development and Childcare Progress Records within Child Forms in Oita Prefecture

Noriko SAITO

【要旨】

大分県内の保育所、幼保連携型認定こども園で使用されている2種類の発達・保育経過記録を比較のために、項目内容について検討を行った。「5歳児発達・保育経過記録シート」では、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいや内容がランダムに挿入されたり、文章の一部を改変したもの、内容の取扱いや解説の文章を使用したり、発達検査の項目が含まれていることが明らかになった。また、「5歳児発達・保育経過記録シート」の項目を用いて保育者の保育指針、教育・保育要領に対する内容理解度を保育学生と比較分析したところ、保育学生の方がねらい及び内容の文章ではないものに気付くことが示された。特に領域「健康」には発達検査の項目が含まれており、保育指針、教育・保育要領を扱う授業に含まれない内容であるためではないかと考えられる。

キーワード 児童票, 発達保育経過記録, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

1. 問題と目的

保育者は、乳幼児期の子どもたちの成長と発達に深く関わる専門職であり、彼らの職務には高度な知識と実践力が求められる。その中でも、保育所保育指針（以下、保育指針）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下、教育・保育要領）は保育者が日々の保育活動を実施する上での基盤となる重要なガイドラインである。

特に、保育所と幼保連携型認定こども園では、市町村の支援の下に「児童票」の作成が義務付けられている。児童票とは、子どもの入園から退園までの家庭状況や健康状況、保育経過を記録したもので、「保育所児童保育要録」、「認定こども園こども要録」（以下、要録）作成のための参考資料として重要な役割を果たしている。児童票は市町村ごとに作成してよいとされており、大分県では大分県保育連合会が制定し大分県こども未来課と大分県小児科医会が監修したものを使用する園が多いようである。

この児童票の中に「発達・保育経過記録」があり、1年間の子どもの発達する姿を4期に分けて保育者が評価し、次年度の保育の資料や保育者自身の保育の振り返りとして活用されている。発達・保育経過記録の様式や記録方法については各市町村、各園に委ねられており様々な形態が存在するため、小学校へ送付する要録の記入内容の基準や就学支援の観点各園、各保育者によって異なることが考えられる。

発達検査における「評価」は、子どもの能力を的確にアセスメントするために行動を直接観察して「できる」「できない」で測定するものであり、代表的なものとして新版K式発達検査、津守式乳幼児精神発達診断法（以下、津守式）、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法（以下、遠城寺式）、KIDS乳幼児発達スケール、新版S-M社会生活能力検査、子どもの強さと困難さアンケート（SDQ：Strengths and Difficulties Questionnaire）、などがあげられるが、いずれ

も標準化され、信頼性と妥当性が示されている。

しかし、保育における「評価」の概念について、野津¹⁾は、単に「ある能力を伸ばすこと」や「何かができるようになること」を目的にしているのではなく、あくまでも、幼児一人ひとりのよさと成長の可能性を見出し、育むことを目的としている。また、子どもたちが自分らしさ（個性と主体性）を十分に発揮して、発達に必要な経験を積み重ねていくようにするために、「保育の営み」を省察することである、と述べている。つまり、保育における「評価」は子どもの発達の到達目標ではなく、いわゆる方向目標である。

さらに、目標が達成されたことを評価する場合、保育者の感覚に委ねられている部分が多く、客観的で具体的な観点は保育指針、教育・保育要領以外では十分に示されていない。

このことから、保育者は発達・保育経過記録を記入する際に保育指針、教育・保育要領の内容とその意図をふまえて作成しなければならず、保育者がどれだけ正確に保育指針、教育・保育要領を理解し、実際の保育に適用できているかは、保育の質や就学前後の切れ目のない支援体制構築に直結する重要な課題である。

そこで本研究では、【分析1】大分県内で使用されている2種類の発達・保育経過記録を比較し、項目内容について詳細な検討をすること、【分析2】保育者の保育指針、教育・保育要領に対する理解度を短大で保育指針、教育・保育要領を学ぶ保育学生と比較分析し、その理解度が発達・保育経過記録の記載にどのような影響をうけているかを検討することを目的とする。

2. 分析1

大分県内で使用されている2種類の発達・保育経過記録の項目内容の比較検討のために①大分県保育連合会制定の「発達・保育経過記録シート」と②大分県福祉保健部こども未来課作成の「5歳児指導の記録」を使用する。

2-1 方法

(1) 「発達・保育経過記録シート」について

「発達・保育経過記録シート」は、児童票フォーマットの中にある「発達・保育経過記録」のこ

とであり、「イコールレーダー」という名称で呼ばれている。保育指針や教育・保育要領に基づいて保育者の専門的視点で記された発達・保育経過記録を関係機関と共有することを目的として開発された。4期にわたって観察した子どもの発達経過をレーダーチャートにすることで可視化し、個々の発達を比較しやすくしたものである。「発達・保育経過記録シート」は0～5歳まで6種類のシートが存在するが、本研究では5歳児用のシートを使用するため操作的に「5歳児発達・保育経過記録シート」と記載する。

項目については、「養護」のねらいならびに保育内容5領域のねらい及び内容を項目化したものに加え、大分県保育連合会が独自に設定したオリジナルの項目が含まれている。項目の内訳は、「養護」8項目、「健康」24項目、「人間関係」26項目、「環境」17項目、「言葉」16項目、「表現」16項目の合計107項目で、各項目について「形成されていない」「援助があればできる」「形成されている」「経験させていない」の4段階で評価する。

(2) 「5歳児指導の記録」について

「5歳児指導の記録」は、保育者が自身の保育を振り返り、園での援助や指導の改善に活かすために作成する記録で、小学校での指導や支援、子どもの育ちをつなぐために活用することを目的として開発された。4期にわたって観察した子どもの育ちをレーダーチャートにすることは発達・保育経過記録シートと同様である。

項目については、「養護」のねらいならびに保育内容5領域の内容を項目化したもので、5領域のねらいは含まれていない。項目の内訳は「養護」8項目、「健康」10項目、「人間関係」13項目、「環境」12項目、「言葉」10項目、「表現」8項目の合計61項目で、各項目について「よく見られる」「一部（時折）見られる」「あまり見られない」「該当する場面や経験がない」の4段階で評価する。

(3) 分析方法

「5歳児発達・保育経過記録シート」を①5領域ごとに保育指針、教育・保育要領のねらい及

び内容をそのまま使用した項目、②保育指針、教育・保育要領のねらい及び内容の文章を部分削除したり、つなぎ合わせたりしたアレンジ項目、③保育指針、教育・保育要領のねらい及び内容に記載のないオリジナルの項目に分類し「5歳児指導の記録」の項目と比較検討する。

項目の分類、比較検討にあたっては筆者を含む臨床心理士2名と保育・幼児教育現場、行政経験のある教員2名で実施する。

2-2 結果

(1) 「5歳児発達・保育経過記録シート」について

表1に項目と保育指針、教育・保育要領との関連を示した。

1) 領域「健康」

24項目中、保育指針と教育・保育要領のねらい①②③と内容③⑨がランダムに含まれていた。アレンジ項目は、内容⑥「健康な生活リズムを身につける」を、通し番号6「健康な生活リズムを身につけ、楽しんで食事をする」(以下、アレンジ部分の下線は筆者)、内容⑦「身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする」を、通し番号10「身の回りを清潔にし、衣服の着脱、(食事を削除)排泄など生活に必要な活動を自分で行う」、内容⑩「危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する」を、通し番号8「危険な場所や災害時などの行動の仕方がわかり、危険を予測して安全に気を配る」、通し番号11「災害時などの行動の仕方がわかり、危険を予測して安全に気を配る」に変更していた。

2) 領域「人間関係」

26項目中、保育指針と教育・保育要領のねらい①②③と内容②⑤⑥⑦⑨⑪⑫⑬がランダムに含まれていた。アレンジ項目は、内容⑧の「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりなどする」と内容④「いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ」を合成して通し番号32

「友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ」に変更していた。

また、内容①「保育士(保育教諭)等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう」を通し番号49「保育者等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう」に変更しているが、これは1歳以上3歳未満児の文章を使用していた。

さらに、通し番号44の「日常生活の中で、わが国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」は保育指針と教育・保育要領では「環境」の内容であるが、このシートでは「人間関係」に含まれていた。

3) 領域「環境」

17項目中、保育指針と教育・保育要領のねらい①②③と内容①③⑧がランダムに含まれていた。アレンジ項目は、内容⑤「身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする」を、通し番号59「身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付く」、内容④「自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ」を、通し番号60「自然などの身近な事象に関心をもち、遊びや生活に取り入れて遊ぶ」、内容⑨「日常生活の中で数量や図形などに関心をもち」と内容⑩「日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもち」を合成して、通し番号63「遊びや生活の中で数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねる」に変更していた。

また、通し番号64の「安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする」は1歳以上3歳未満児の内容①をアレンジしたものであったためオリジナルとした。

4) 領域「言葉」

「言葉」16項目中、保育指針と教育・保育要領のねらい①②と内容①④⑥⑦⑧⑨⑩がランダムに含まれていた。アレンジ項目は、ねらい③の「日常生活に必要な言葉が分かるようになる

表1 5歳児発達・保育経過記録(イコールレーダー)の項目

通し番号	領域	項目	保育指針、教育・保育要領との関連
1	健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	ねらい①
2	健康	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、見通しを持って行動をする。	ねらい③
3	健康	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	ねらい②
4	健康	様々な遊びや生活に見通しを持って自律的に行動する。	オリジナル(内容⑧解説)
5	健康	様々な活動に自分なりに目標を持って繰り返し挑戦したりする。	オリジナル(自立心)
6	健康	健康な生活リズムを身につけ、楽しんで食事をする。	内容⑥のアレンジ
7	健康	自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。	内容⑨
8	健康	危険な場所や災害時などの行動の仕方がわかり、危険を予測して安全に気を配る。	内容⑩のアレンジ
9	健康	休息や解放感を味わい、生活リズムを整える。	オリジナル(内容⑥解説)
10	健康	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、排泄など生活に必要な活動を自分で行う。	内容⑦のアレンジ
11	健康	災害時などの行動の仕方がわかり、危険を予測して安全に気を配る。	内容⑩のアレンジ
12	健康	交通のルールや決まりが分かり守る。	オリジナル(内容⑩解説)
13	健康	排泄後の後始末が上手にできる。	オリジナル(津守式)
14	健康	園内外の様々な遊具等の使い方がわかり、安全に遊びを展開する。	オリジナル(内容⑩解説)
15	健康	片足で5~10秒間立ってられる。	オリジナル(遠城寺式)
16	健康	進んで戸外で遊ぶ。	内容③
17	健康	上手投げでボールを投げる。	オリジナル(出典不明)
18	健康	鉄棒の前回りができる。	オリジナル(津守式)
19	健康	鉄棒の逆上がりができる。	オリジナル(出典不明)
20	健康	タオルや雑巾をしぼることができる。	オリジナル(津守式)
21	健康	食材の食感や香り、形などに興味を持つ。	オリジナル(内容の取扱い(4)の解説)
22	健康	身体と食べ物との関係について関心を持つ。	オリジナル(内容の取扱い(4)の解説)
23	健康	手洗いなど、身の回りを清潔にし、食事に必要な活動を自分でしようとする。	オリジナル(内容⑦解説)
24	健康	食習慣や食事のマナーが身につけている。	オリジナル(食育の推進)
25	人間関係	園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	ねらい①
26	人間関係	身近な環境に主体的に関わり、考えたり、工夫したりしながら諦めずにやり遂げる。	オリジナル(自立心)
27	人間関係	自分で考え、自分で行動する。	内容②
28	人間関係	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい愛情や信頼感を持つ。	ねらい②
29	人間関係	友達と関わる中で、共通の目的の実現に向けて協力し、充実感を持ってやり遂げる。	オリジナル(協同性)
30	人間関係	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。	内容⑥
31	人間関係	友達の下さきに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。	内容⑦
32	人間関係	友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。	内容④⑧のアレンジ
33	人間関係	自分なりに考えて判断したり、自分たちで解決しようとする。	オリジナル
34	人間関係	社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。	ねらい③
35	人間関係	思いやりを持って相手の気持ちを大切にしながら行動する。	オリジナル(内容⑩解説)
36	人間関係	相手の気持ちに共感したりしながら相手の立場にたって行動する。	オリジナル(道徳性)
37	人間関係	決まりを守る必要性がわかり、友達と折り合いをつけながら、きまりを作ったり守ったりする。	オリジナル(道徳性)
38	人間関係	友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。	内容⑩
39	人間関係	よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。	内容⑨
40	人間関係	家族との絆を深めるとともに地域のひととの触れ合いの中で人の役に立つ喜びを感じ親しみを持つ。	オリジナル(社会生活とかかわり)
41	人間関係	遊びや生活に必要な情報を取り入れ情報を伝えあったり、公共の施設を大切に利用するなど社会とのつながりを意識する。	オリジナル(社会生活とかかわり)
42	人間関係	高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。	内容⑬
43	人間関係	近隣の生活に興味や関心を持ち、園内外の行事などに喜んで参加する。	オリジナル(社会生活とかかわり)
44	人間関係	日常生活の中で、わが国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。	「環境」の内容⑥
45	人間関係	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感しあう。	内容⑤
46	人間関係	身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達とかかわり、思いやりや親しみを持つ。	オリジナル(内容⑩解説)
47	人間関係	共同の遊具や用具を大切に、皆で使う。	内容⑫
48	人間関係	外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。	オリジナル(「環境」の内容の取扱い(4))
49	人間関係	保育者等や友達との安定した関係の中で、共に過ごすことの喜びを味わう。	内容①のアレンジ(未満児)
50	人間関係	身近な大人や友達と協力し合って、調理することを楽しむ。	オリジナル(食育の推進)
51	環境	身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。	ねらい②
52	環境	物の性質や仕組みを感じ考えたり予想したり工夫するなど多様な関わりを楽しむ。	オリジナル(思考力の芽生え)
53	環境	自分とは異なる考えがあることに気づき、自ら判断しようしたり、考え直したりしながら、自分の考えをより良いものにする。	オリジナル(思考力の芽生え)
54	環境	身近なものや遊具に興味を持って関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。	内容⑧
55	環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。	ねらい①
56	環境	自然に触れる中で、好奇心や探究心をもって考え、言葉などで表現しようとする。	オリジナル(自然との関わり)
57	環境	経験の中で身近な事象への関心が高まる。	オリジナル(自然との関わり)
58	環境	自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	内容①
59	環境	身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付く。	内容⑤のアレンジ
60	環境	自然などの身近な事象に関心を持ち、遊びや生活に取り入れて遊ぶ。	内容④のアレンジ
61	環境	季節により自然や人間の生活に変化のあることに気づく。	内容③
62	環境	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	ねらい③
63	環境	日常生活の中で数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねる。	内容⑨⑩のアレンジ
64	環境	安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。	オリジナル(未満児)
65	環境	好きな玩具や遊具に興味を持って関わり、様々なあそびを楽しむ。	オリジナル(内容⑧解説)
66	環境	公共施設(人的、物的)などの役割に興味や関心を持つ。	オリジナル(内容⑩解説)
67	環境	食材にも旬があることを知り、季節感を感じる。	オリジナル(食育の推進)
68	言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。	ねらい①
69	言葉	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。	ねらい②
70	言葉	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育者等や友達と心を通わせる。	ねらい③のアレンジ
71	言葉	保育者等や友達との関わりの中で、絵本や物語などに親しみながら豊かな言葉や表現を身につける。	オリジナル(内容の取扱い(4))
72	言葉	経験した事や考えた事などを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりして、言葉による伝え合いを楽しむ。	オリジナル(内容の取扱い(2))
73	言葉	保育者等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。	オリジナル(内容②解説)
74	言葉	保育者等や友達との言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。	内容①

75	言葉	人の話を注意して聞き、相手にわかるように話す。	内容④
76	言葉	親しみを持って日常の挨拶をする。	内容⑥
77	言葉	生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。	内容⑦
78	言葉	絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像をする楽しさを味わう。	内容⑨
79	言葉	いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。	内容⑧
80	言葉	日常の生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。	内容⑩
81	言葉	ひらがなの自分の名前を書くことができる。	オリジナル(津守式)
82	言葉	ひらがなの自分の名前を読むことができる。	オリジナル(津守式)
83	言葉	自分の前後、左右が分かる。	オリジナル(遠城寺式、新版K式)
84	表現	いろいろな物の楽しさなどに対する豊かな感性を持つ。	ねらい①
85	表現	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	ねらい②
86	表現	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	ねらい③
87	表現	心を動かす出来事などに触れ、感性を働かせる中で様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付く。	オリジナル(内容の取扱い(1)の解説)
88	表現	感じたことや考えたことを友達同士で表現する過程を楽しんだり表現する喜びを味わう。	オリジナル(内容の取扱い(2)の解説)
89	表現	生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。	内容②
90	表現	自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。	内容⑧
91	表現	感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。	内容④
92	表現	様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。	内容③
93	表現	水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。	オリジナル(内容⑤解説)
94	表現	いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。	内容⑤
95	表現	かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。	内容⑦
96	表現	保育者等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。	オリジナル(内容⑥解説)
97	表現	音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。	内容⑥
98	表現	四角、三角の形が描ける。	オリジナル(新版K式)
99	表現	生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しむ。	内容①のアレンジ

注1) :保育指針や教育・保育要領のねらい、内容の文章

とともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士（保育教諭）等や友達と心を通わせる」を通し番号70「日常生活に必要な言葉が分かるようになる」とともに、絵本や物語などに親しみ、（言葉に対する感覚を豊かにし、を削除）保育者等や友達と心を通わせる」に変更していた。

5) 領域「表現」

「表現」16項目中、保育指針と教育・保育要領のねらい①②③と内容②③④⑤⑥⑦⑧がランダムに含まれていた。アレンジ項目は、内容①「生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ」を、通し番号99「生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しむ」に変更していた。

(2) 「5歳児指導の記録」について

「5歳児指導の記録」の項目内容については、保育指針と教育・保育要領の「内容」をそのまま使用しているため作成者の意図や評価についての留意点は「内容の取扱い」や解説に記載されていた。

2-3 考察

2種類の発達・保育経過記録を比較し、項目

内容について検討を行った。「5歳児発達・保育経過記録シート」については、保育指針、教育・保育要領のねらいや内容がランダムに挿入されたり、文章の一部を改変、つなげたもの、内容の取扱いや解説の文章を使用したり、発達検査の項目が含まれていることが明らかになった。

オリジナル項目では、領域「健康」の、通し番号13「排泄後の後始末が上手にできる」、通し番号18「鉄棒の前回りができる」、通し番号20「タオルや雑巾をしぼることができる」、領域「言葉」の通し番号81「ひらがなの自分の名前を書くことができる」、通し番号82「ひらがなの自分の名前を読むことができる」は津守式、領域「健康」の通し番号15「片足で5～10秒間立ってられる」は遠城寺式、領域「言葉」の通し番号83「自分の前後、左右が分かる」は、遠城寺式や新版K式発達検査、領域「表現」の、通し番号98「四角、三角の形が描ける」は、新版K式発達検査に類似の項目がみられた。

その他のオリジナルの項目については出典が不明だが、保育指針、教育・保育要領の「内容の取扱い」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、「食育の推進」や保育指針、教育・保育要領の解説をアレンジしたものが使用されているのではないかと推察された。このことについて作成者の意図や評価の観点は示されていないが、ねらいや内容をさらに細分化し、保育者が

評価しやすいように具体的な項目にしたのではないかと考えられる。

例えば、領域「健康」の内容⑥「健康な生活のリズムを身に付ける」は通し番号6「健康な生活のリズムを身につけ、楽しんで食事をする」に変更している。それに伴い、内容⑦「身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする」を通し番号10では「食事」を削除している。さらに、通し番号23、24も食事に関する内容であるが、食事の前に手洗いができているか、マナーが身につけているかというように細分化されているため、類似の項目が増えたのではないかと考えられた。

「健康な生活リズム」の概念として、保育指針や教育・保育要領には、生活習慣に関するすべての要素が含まれていることが明確に記載されている。つまり、保育者が子どもの起床から就寝までの基本的な生活習慣を園での様子だけでなく保護者からの聞き取りも含めて理解し、子どもを具体的な姿としてとらえることができれば項目を細分化する必要はなく、「5歳児指導の記録」のような「内容」のみの項目でも意義があると考えられる。

3. 分析2

保育者と保育学生の保育指針、教育・保育要領に対する内容理解度の比較分析をする。

3-1 方法

(1) 調査対象

①保育者59名（平均年齢44.4歳SD=7.76、平均保育経験年数20.2年SD=6.38）このうち児童票を記載したことのある年数は、10年以上の者が41名、2年～10年未満の者が13名、無回答が5名であった。また、今年度児童票を記載する担当者は22名、記載しない者は36名、無回答が1名であった。所属園で使用している発達・保育経過記録については、①大分県保育連合制定の「発達・保育経過記録シート」を使用している園に所属する者17名、②大分県福祉保健部こども未来課作成の「5歳児指導の記録」を使用している園に所属する者12名、その他のシートを使用している園に

所属する者25名、不明5名であった。

②保育学生48名（1年生34名、2年生14名）は全員が5領域に関する科目である、保育内容I～Vの授業を受講し単位を取得している。

(2) 調査内容

5歳児発達・保育経過記録シートの「養護」8項目をのぞく99項目に対して、保育指針、教育・保育要領に記載されているねらい及び内容の文章であれば「ねらい」、「内容」を選択し、アレンジやオリジナルで作成された項目であれば「×（記載なし）」を選択するよう回答を求め、正答率を比較分析する。ただし、保育指針の「保育士」と教育・保育要領の「保育教諭」の名称は「保育者等」と変更している。また、若干の変更（漢字表記をひらがなにしている、句読点や助詞の不足等）は発達・保育経過記録シートの文章をそのまま使用し、保育指針、教育・保育要領の「ねらい」「内容」に含めることとした。

(3) 調査手続き

調査は、2024年12月に調査用紙とGoogleフォーム（メールアドレスを収集しない設定）の選択制で無記名回答を求めた。保育者に対しては保育者研修の講師に依頼し、研修内で調査を実施した。保育学生に対しては筆者が講義内で調査を実施した。

(4) 倫理的配慮

本調査の実施にあたり、別府大学・別府大学短期大学部研究倫理審査委員会の承認を得た（承認番号2024-15）。調査はインフォームドコンセントの下で実施され、調査内容に同意できない場合は回答の途中でであっても中断できることを説明した。ただし、無記名回答のためアンケート提出後の特定は困難であるため、データを除外できないことも説明したうえで実施した。

3-2 結果

発達・保育経過記録シートの項目のうち、保育指針と教育・保育要領のねらいと内容に該当する項目とアレンジ、オリジナルに該当する項目を分類し、各分類における項目数のうち、

表2 発達・保育経過記録シートの項目「ねらい・内容」と「アレンジ・オリジナル」の χ^2 検定

	保育者		学生		合計		Cramer's V	多重比較				
	N	%	N	%	N	%		群間差	群内差			
ねらい 内容	正答率が高い	39	66.1%	28	58.3%	67	62.6%	.080	n.s	n.s		
	正答率が低い	20	33.9%	20	41.7%	40	37.4%					
	合計	59	100.0%	48	100.0%	107	100.0%					
アレンジ オリジナル	正答率が高い	1	1.7%	6	12.5%	7	6.5%	.217*	保育者 (正答率が高い)* < 学生 (正答率が高い)*	正答率が高い (保育者)* < 正答率が低い (保育者)*		
	正答率が低い	58	98.3%	42	87.5%	100	93.5%				学生 (正答率が低い)* < 保育者 (正答率が低い)*	正答率が高い (学生)* < 正答率が低い (学生)*
	合計	59	100.0%	48	100.0%	107	100.0%					

注1) : 群間差が有意であるもの : 群内差が有意であるもの

注2) * $p < .05$

表3 全項目における領域ごとの χ^2 検定

	保育者		学生		合計		Cramer's V	多重比較				
	N	%	N	%	N	%		群間差	群内差			
健康	正答率が高い	4	6.8%	13	27.1%	17	15.9%	.276**	保育者 (正答率が高い)** < 学生 (正答率が高い)**	正答率が高い (保育者)** < 正答率が低い (保育者)**		
	正答率が低い	55	93.2%	35	72.9%	90	84.1%				学生 (正答率が低い)** < 保育者 (正答率が低い)**	正答率が高い (学生)** < 正答率が低い (学生)**
	合計	59	100.0%	48	100.0%	107	100.0%					
人間関係	正答率が高い	7	11.9%	4	8.3%	11	10.3%	.058	n.s	n.s		
	正答率が低い	52	88.1%	44	91.7%	96	89.7%					
	合計	59	100.0%	48	100.0%	107	100.0%					
環境	正答率が高い	2	3.4%	3	6.3%	5	4.7%	.067	n.s	n.s		
	正答率が低い	57	96.6%	45	93.8%	102	95.3%					
	合計	59	100.0%	48	100.0%	107	100.0%					
言葉	正答率が高い	23	39.0%	19	39.6%	42	39.3%	.006	n.s	n.s		
	正答率が低い	36	61.0%	29	60.4%	65	60.7%					
	合計	59	100.0%	48	100.0%	107	100.0%					
表現	正答率が高い	26	44.1%	18	37.5%	44	41.1%	.066	n.s	n.s		
	正答率が低い	33	55.9%	30	62.5%	63	58.9%					
	合計	59	100.0%	48	100.0%	107	100.0%					

注1) : 群間差が有意であるもの : 群内差が有意であるもの

注2) ** $p < .01$

半数以上正答しているものと正答していないものに分類し、保育者と保育学生における正答率が高いものと低いものの割合の違いを検討するために χ^2 検定を行った。

その結果、アレンジ、オリジナル項目のみ有意な差がみられた ($\chi^2(1) = 5.054, p < .05$, Cramer's V = .217) (表2)。まず、群間差において〈正答率が高い〉ものは保育者より保育学生の方が、〈正答率が低い〉ものは保育学生より保育者の方が有意に多かった。群内差では保育者・保育学生双方とも〈正答率が高い〉ものより〈正答率が低い〉ものの方が有意に多かった。

次に、各領域における項目数のうち、半数以上正答しているものと正答していないものに分

類し、保育者と保育学生における正答率が高いものと低いものの割合の違いを検討するために χ^2 検定を行った。

その結果、領域「健康」のみ有意な差がみられた ($\chi^2(1) = 8.165, p < .01$, Cramer's V = .276) (表3)。まず、群間差において〈正答率が高い〉ものは保育者より保育学生の方が、〈正答率が低い〉ものは保育学生より保育者の方が有意に多かった。群内差では保育者・保育学生双方とも〈正答率が高い〉ものより〈正答率が低い〉ものの方が有意に多かった。

3-3 考察

保育者の保育指針、教育・保育要領に対する

内容理解度を保育学生と比較分析したところ、保育学生の方がねらい及び内容の文章ではないものに気付くことが示された。特に領域「健康」には発達検査の項目が含まれていたため、保育指針や教育・保育要領を扱う講義では聞いたことがなかったのではないかと考えられる。

前述のように「5歳児発達・保育経過記録シート」には内容の取扱いや解説など様々な文章が用いられているためベテランの保育者になるほど惑わされやすく、日々の保育において経験則が重視されるため保育指針や教育・保育要領のねらい、内容と実践との乖離が生じているのではないかと推察された。

また、「ねらい」とは「保育を通じて育みたい資質・能力（保育指針）」「幼保連携型認定こども園終了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度（教育・保育要領）」であり、「内容」とは「ねらいを達成するために、子どもの生活やその状況に応じて保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項（保育指針）」「ねらいを達成するために指導する事項（教育・保育要領）」²⁾³⁾であることから、「ねらい」は方向目標であるため、項目の中に入れて評価するべきではない。

さらに、保育における評価は到達目標ではないとしつつ、津守式や遠城寺式のような発達検査の項目が含まれていることも評価の混乱を招くことが示された。発達を観察可能な「できる・できない」で評価するのであれば、保育・指導要録のための発達評価シート（TASP：Transitional Assessment Sheet for Preschoolers）⁴⁾のようなツールを使用すればよいが、保育における発達の連続性を可視化したレーダーチャートに意義があるのならば、ねらいと内容をより深く理解する保育者の力量が求められる。

4. まとめと今後の課題

大分県内で使用されている2種類の発達・保育経過記録の項目内容について検討し、保育者の保育指針、教育・保育要領に対する理解度を保育学生と比較分析した。要録や児童票をはじめとする記録物は保育指針や教育・保育要領と

リンクして適切に記録することが求められる。そのために保育者、保育学生、養成校は保育幼児教育の基礎基本である保育指針や教育・保育要領に立ち返り、学びを深める必要がある。

今回の調査で、2種類以外のシートを使用している園に所属している保育者が25名、不明が5名であった。子どもの育ちを適切に評価し要録に記載するためには統一したシートを用いることが望ましい。今後の課題として各園がどのようなシートを使用しているのか全県調査し、発達・保育経過記録の実用性を検証することがあげられる。

利益相反について 本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はない。

【謝辞】

本研究の実施にあたり、調査にご協力いただきました保育者、学生のみなさま、大分県発達障がい者支援センターイコールセンター長の五十嵐猛先生に感謝申し上げます。

【引用・参考文献】

- 1) 野津道代 (2011) 保育における「評価」の実践的価値について 島根大学教育学部附属学校園研究紀要31-32, 2011-11
- 2) 保育所保育指針解説 (2018) フレーベル館
- 3) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (2018) フレーベル館
- 4) 保育・指導要録のための発達評価シート開発チーム (2017) TASP保育・指導要録のための発達評価シート解説書 スペクトラム出版